

伊藤和行先生業績一覧

稲葉 肇*

Bibliography of Professor Kazuyuki Ito

Hajime Inaba

はじめに

伊藤和行先生は1957年3月17日、北海道にて誕生された。先生は北海道大学理学部物理学科で物理学を専攻された後科学史に転向し、東京大学大学院理学系研究科科学史・科学基礎論専攻、イタリア・フィレンツェ大学およびフィレンツェ科学史博物館等において科学史の専門的な研鑽を積まれた。京都大学文学部へは1995年、当時新設まもなかった科学哲学科学史専修に助教授として着任され、以来26年間にわたって科学史の教育研究を担当された。2002年に「ガリレオの数学的運動論」により博士（文学）の学位を取得、2006年には教授に昇格された。先生は本来であれば2021年度末に定年を迎えられるはずであったが、在職中の2021年7月5日、北海道にて逝去された。

伊藤先生は1980年代から多くの分野にわたって論考を発表されたが、主要な分野を取り上げるとすれば、それは何よりもまずルネサンス研究になるだろう。「ジョルダーノ・ブルーノの地動説」[2]以来、先生はイタリア・ルネサンスに関して多岐にわたる研究や翻訳を公にされた。その中には魔術やヘルメス主義などのルネサンス独特の自然観に関する研究（たとえば[14]）や、ルネサンスの医学に関する論文（たとえば[20]）も多数含まれる。

伊藤先生のルネサンス研究の中でもとりわけ知られているのは、ガリレオ研究であろう。先生はガリレオの観測天文学と運動論に関してさまざまな側面から光を当て、多数の論考を出版された。代表的なものとしては、ガリレオの望遠鏡観測の成果と意義をまとめた『ガリレオ：望遠鏡が発見した宇宙』（中公新書、2013年）

* 明治大学政治経済学部 Hajime.Inaba@gmail.com. なお業績一覧の作成にあたっては、有賀暢迪（一橋大学）・梶丸岳（京都大学）・坂本邦暢（明治大学）・杉本舞（関西大学）・瀬戸口明久（京都大学）の各氏から情報提供を受けた。記して感謝する。

[75] や、ガリレオの『星界の報告』の翻訳 [83] が挙げられる。また、ガリレオの『新科学論議』の新訳にも取り組まれていたとも聞かすが、残念ながらこれは未完に終わった。

また伊藤先生は、ガリレオ以降の時代、すなわちデカルトやニュートン以来の古典力学の歴史についても研究を残されている。今日の力学と 18 世紀の力学とは大きく姿が異なる。そのことを先生は運動方程式の成立 [54] や、流体力学の発展 [69]、また座標概念の歴史 [73] といった事例を通じて探究された。

その他にも伊藤先生はきわめて幅広い関心を持たれていた。たとえばコンピュータの歴史については、FINE (情報倫理の構築) プロジェクトに関連した公開鍵暗号の歴史 [45] の調査や、神経回路と電気回路の類比という観点によるオートマトンの歴史 [63] の調査が挙げられる。チューリングの原論文の翻訳と解説 [77] を共訳という形で出版されていることも付け加えておかなければならない。先生は近年、日本の科学史 (たとえば [90]) や宇宙論の歴史 [92] などにも関心を広げられていた。

2021 年 5 月に出版された『科学史事典』 [96] は、生前に公になった成果としては伊藤先生最後の仕事である。先生は記事の執筆はもちろんのこと編集幹事をも務められ、ガリレオの『二大世界系対話』の図版を『科学史事典』の表紙に選定したのも先生であったと聞く。

最後に、研究業績に加えて、伊藤先生が本誌『科学哲学科学史研究』の創刊と発行、また科学哲学科学史専修の教室運営に長年たずさわり、多くの学生を指導されてきたことにも触れなければならない。科学哲学科学史専修に限っても、先生は 67 名の卒業論文、38 名の修士論文、そして 8 名の博士論文の主査または副査を担当された。この数は、他専修の論文副査も含めればさらに大きく増えるだろう。先生のこのような教育面の実績も強調されてしかるべきである。

業績一覧

- [1] 【書評】「ロバート・S・ウェストマン『魔術の改革と天文学の改革』」『科学史・科学哲学』第 1 号 (1980 年), 26–30 頁。
- [2] 「ジョルダノー・ブルーノの地動説」『科学史研究』第 21 卷 (1982 年), 81–87 頁。 [http://dx.doi.org/10.34336/jhsj.21.142_81]
- [3] 【書評】“Yōichirō MURAKAMI, *Kagakushi no Gyakuenkinhō (The Reverse-perspectivism in the History of Science)—A Revaluation of the Renaissance*

- Thought, Chūōkōron Sha, Tokyo, 1982, 306pp., ¥1500,” *Historia Scientiarum*, 24 (1983): 115–117. [<https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/11023735/60>]
- [4] 【事典項目】「ウァロ」「ヴィヴィアーニ」「カステリ」「カンパネッラ」「記憶術」「コペルニクス」「コルドゥス」「ジャコモ」「タルタリア」「ディグズ」「パトリツィ」「フラカストロ」「ベラルミーノ」「ボルタ」「ミュンスター」「ルネサンスの科学」「レティクス」および全体の編集協力。伊東俊太郎ほか編『科学史技術史事典』弘文堂，1983年。
- [5] 【抄訳】ガリレオ『新科学論議』第一日・第三日，伊東俊太郎『人類の知的遺産 31 ガリレオ』（講談社，1985年），215–263頁。〔第四日（264–301頁）は斎藤憲訳〕
- [6] 「ガリレオの運動論とその背景」佐々木力編『科学史』（弘文堂，1987年），75–107頁。
- [7] 「ガリレオの斜面運動の原理」『イタリアーナ』第16号（1987年），35–45頁。
- [8] 「ガリレオとピサの斜塔」『イタリア圖書』第1号（1988年），14–19頁。
- [9] 【翻訳】パオロ・ロッシ『哲学者と機械：近代初期における科学・技術・哲学』学術書房，1989年。
- [10] 「ルネサンスの技術家：近代科学の先駆者たち」伊東俊太郎・村上陽一郎共編『講座科学史1 西欧科学史の位相』（培風館，1989年），189–208頁。
- [11] 「人文主義・芸術・科学：イタリア・ルネサンス科学新考」『思想』第785号（岩波書店，1989年），99–125頁。
- [12] 【書評】「菅谷暁訳，アレクサンドル・コイレ，『ガリレオ研究』，法政大学出版会，東京，1988年3月，vi+479+iv pp., 4500円」『科学史研究』第28巻（1989年），107–109頁。 [https://doi.org/10.34336/jhsj.28.170_106]
- [13] 「トリチェッリの実験と真空の存在」高橋憲一・佐藤徹執筆代表『自立する科学史学：伊東俊太郎先生還暦記念』（北樹出版，1990年），64–79頁。
- [14] 「混沌たる自然：ルネサンスの魔術的宇宙観」『理想』第649号（1992年），34–43頁。
- [15] 【翻訳】P・O・クリステラー『イタリア・ルネサンスの哲学者』みすず書房，1993年。〔佐藤三夫・根占献一・伊藤博明との共訳。2006年新装版〕
- [16] 【翻訳】Lewis Pyenson「科学史の良さとは何か」『思想』第827号（岩波書店，1993年），58–85頁。〔馬場郁との共訳〕
- [17] 【翻訳】F・A・イエイツ「ルネサンス科学におけるヘルメスの伝統」『ルネサ

- ンス研究』第1号(1994年), 189–216頁.
- [18] 「太陽崇拜思想と太陽中心説」佐藤三夫編『ルネサンスの知の饗宴：ヒューマニズムとプラトン主義』(東信堂, 1994年), 211–227頁.
- [19] 【翻訳】エルンスト・カッシーラー『シンボルとスキエンティア：近代ヨーロッパの科学と哲学』ありな書房, 1995年. [佐藤三夫・根占献一・加藤守通・伊藤博明・富松保文との共訳]
- [20] 「マルシリオ・フィチーノの健康論」『日本医史学雑誌』第41巻(1995年), 29–40頁. [<http://jsmh.umin.jp/journal/41-1/index.html>]
- [21] 「マルチェッロ・マルピーギの医学論」『日本医史学雑誌』第41巻(1995年), 306–307頁. [<http://jsmh.umin.jp/journal/41-2/index.html>]
- [22] 「ピエトロ・ボンポナッツィ」根占献一・伊藤博明・伊藤和行・加藤守通著『イタリア・ルネサンスの靈魂論』(三元社, 1995年), 127–179頁. [2013年新装版]
- [23] 「研究動向 ガリレオの手稿と Drake の研究：近年のガリレオ研究」『科学哲学ニューズレター』第10号(1995年6月). [http://www.bun.kyoto-u.ac.jp/philosophy_and_history_of_science/phs-archives/newsletters/newslet_10.html]
- [24] 「マルシリオ・フィチーノの長命論」伊藤博明研究代表『ルネサンスにおける異教的伝統の再検討：平成6年度科学研究費補助金〔総合研究A〕研究成果報告書』(1995年), 130–138頁.
- [25] 「ガリレオ」宗像恵・中岡成文編著『西洋哲学史 近代編：科学の形成と近代思想の展開』(ミネルヴァ書房, 1995年), 13–19頁.
- [26] 【書評】「清水純一『ルネサンス 人と思想』」『ルネサンス研究』第2巻(1995年), 330–336頁.
- [27] 【翻訳】ライナルド・ペルジーニ『哲学的建築：理想都市と記憶劇場』ありな書房, 1996年. [伊藤博明との共訳]
- [28] 「運動物体の衝撃力をめぐって：ガリレオ・トリチェッリ・ボレリ」『京都大学文学部研究紀要』第35号(1996年), 109–132頁. [<http://hdl.handle.net/2433/73076>]
- [29] 「マルピーギの医学論」『日本医史学雑誌』第42巻(1996年), 49–59頁. [<http://jsmh.umin.jp/journal/42-1/index.html>]
- [30] 「フラカストロの伝染理論」『日本医史学雑誌』第42巻(1996年), 222–223

- 頁. [<http://jsmh.umin.jp/journal/42-2/index.html>]
- [31] 「ジロラモ・フラカストロの伝染理論」『日本医学雑誌』第43巻（1997年），59–68頁. [<http://jsmh.umin.jp/journal/43-1/index.html>]
- [32] 「ガリレオ・デカルト・ホイヘンス」『科学哲学』第30号（1997年），15–28頁. [<http://dx.doi.org/10.4216/jpssj.30.15>]
- [33] “Studies on Bruno and Renaissance thought in Japan after the Second World War,” *Bruniana & Campanelliana: Ricerche Filosofiche e Materiali Storico-testuali* 3 (1997): 149–153. [<https://archive.org/details/BrunianaAndCampanelliana/Bruniana%20%26%20Campanelliana%20Vol.%203%2C%20No.%201%2C%201997/page/n148/mode/1up>]
- [34] 【事典項目】「ウィトルウィウス」「ヴェサリウス」「ガリレオ」「カンパネッラ」「ザバレッラ」「『新科学論議』」「パレ」「フラッド」「ブルーノ」廣松涉ほか編『岩波哲学・思想事典』岩波書店，1998年。
- [35] “Sun Worship and Heliocentrism,” URL: http://www.bun.kyoto-u.ac.jp/philosophy_and_history_of_science/phs-archives/newsletters/newslet_20.html, read at the international symposium “Europa-Giappone: giornate di studio su Giordano Bruno e il pensiero del Rinascimento” (Tokyo, 30 March–Saitama, 31 March–Kyoto, 2 April 1998).
- [36] 「科学の近代史：『プリンキピア』から「ニュートン力学」へ」加藤尚武・松山壽一編『科学技術のゆくえ』（ミネルヴァ書房，1999年），26–42頁。
- [37] 【書評】児玉善仁『〈病気〉の誕生：近代医療の起源』（平凡社，1998年）『ルネサンス研究』第6号（1999年），199–205頁。
- [38] 「ノストラダムスと医学のルネサンス」樺山紘一・高田勇・村上陽一郎編『ノストラダムスとルネサンス』（岩波書店，2000年），235–254頁。
- [39] 「ルネサンスにおける実践的学問観」伊東俊太郎代表『国際高等研究所報告書1999-005：科学の文化的基底1』，123–137頁。
- [40] 「電子暗号の発展：秘匿と認証」水谷雅彦編集責任『情報倫理学研究資料集2』（京都大学文学研究科「情報倫理の構築」プロジェクト室，2000年），37–49頁. [<http://www.ethics.bun.kyoto-u.ac.jp/fine/tr2/>]
- [41] 「古典力学における運動法則の歴史性：ニュートンの第二法則をめぐる」『哲学研究』第570号（2000年），53–78頁。
- [42] “Historical Perspective on the Laws of Motion in Classical Mechanics”『哲学研究

= *The Journal of Philosophical Studies*』No. 570 (2000), 4–7.

- [43] 『17世紀力学理論における物理学的基礎概念の発展に関する歴史的研究』平成9年度～12年度科学研究費補助金(基盤研究(C)(2))研究成果報告書, 2001年.
- [44] 「ガリレオの数学的原子論」伊藤博明研究代表『ルネサンスにおける自然観の総合的研究』平成12年度科学研究費補助金(基盤研究(B)(1))研究成果報告書(2001年), 65–74頁. [http://www.bun.kyoto-u.ac.jp/philosophy_and_history_of_science/phs-archives/newsletters/newslet_39.html]
- [45] 「電子暗号の発展: 秘匿と認証」水谷雅彦編集責任『情報倫理学研究資料集3』(京都大学文学研究科「情報倫理の構築」プロジェクト室, 2001年), 47–60頁. [<http://www.ethics.bun.kyoto-u.ac.jp/fine/tr3/>]
- [46] 「「ダ・ヴィンチとルネサンスの発明家たち展」を見て」『イタリア圖書』第28号(2001年), 8–12頁.
- [47] 「ルネサンスと科学革命をめぐって(日本科学史学会創立60周年記念パネルディスカッション「科学史研究の方法と展望」)」『科学史研究』第40巻(2001年), 227–229頁. [http://dx.doi.org/10.34336/jhsj.40.220_227]
- [48] 【学位論文】「ガリレオの数学的運動論」京都大学大学院文学研究科博士論文, 2002年.
- [49] 「科学史はいずこへ」『科学哲学ニューズレター』第50号(2003年). [http://www.bun.kyoto-u.ac.jp/philosophy_and_history_of_science/phs-archives/newsletters/newslet_50.html]
- [50] 「シンポジウム ガリレオ科学: 新しい自然学とその歴史的背景(2003年度年会報告)」『科学史研究』第42巻(2003年), 231–242頁. [http://dx.doi.org/10.34336/jhsj.42.228_231; 高橋憲一・東慎一郎・羽片俊夫との共著]
- [51] 「斜面運動の「原理」: 機械学から運動論へ」『科学史研究』第42巻(2003年), 233–235頁. [http://dx.doi.org/10.34336/jhsj.42.228_231]
- [52] 【翻訳】「アッコランポーニ, ヴィットーリア」「アッピアーノ家」「アルヴィアーノ, バルトロメオ・ダ」「アルドロヴァンディ, ウリッゼ」「アルベリーコ・ダ・バルビアーノ」「アンギエーラ」「医学」「ヴァルテマ, ロドヴィーコ・デ」「ヴェサリウス, アンドレアス」「ヴェスプッチ, アメリーゴ」「ヴェッラツァーノ, ジョヴァンニ」「エウスターキオ, バルトロメオ」「エステ, アルフォンソ1世・デ」「エステ, アルフォンソ2世・デ」「エステ, イザベッ

ラ・デ」「エステ, エルコレ 1 世・デ」「エステ, ベアトリーチェ・デ」「エステ家」「オトラント」「オルシーニ家」「オルレアン家」「外交」「海賊行為」「カーソラ, ピエトロ」「カダモスト, アルヴィーゼ」「カボット, ジョン」「カルドーナ, ライモンド・デ」「ガレノス」「コロナ家」「コロンプス (クリストフォロ・コロombo)」「ゴンザーガ, ジャンフランチェスコ 2 世」「ゴンザーガ, フェデリコ 2 世」「ゴンザーガ, フランチェスコ 1 世」「ゴンザーガ, ロドヴィーコ 3 世」「ゴンザーガ家」「コンティ, ニッコロ・デイ」「サン・ロマーノの戦い」「塩戦争」「神聖同盟」「スイス」「ストラボン」「占星術」「チェザルピーノ, アンドレーア」「デッラ・ポルタ, ジャンバッティスタ」「ドゥラッツォ家」「独裁者」「バリオーニ家」「ピガフェッタ, アントーニオ」「ヒポクラテス」「ファブリキウス, アクアペンデンテの (ジェローニモ・ファブリツィオ)」「ファルネーゼ家」「ファロピオ, ガブリエーレ」「フォルテブラッチョ, ブラッチョ」「フラカストーロ, ジローラモ」「ペゴロッチェ, フランチェスコ・バルドゥッチ」「ペトルッチ家」「ベレンガーリオ・ダ・カルピ, ヤーコポ」「マウロ, フラ」「魔術」「マッティオーリ, ピエランドレーア」「マリニャーノの戦い」「マルコ・ポーロ」「ラースロー, ドゥラッツォ家の」「ラムージョ, ジョヴァンニ・バッティスタ」「ラヨシュ 1 世, アンジュー家の」「ルイーダ 2 世, アンジュー家の」中森義宗監訳『イタリア・ルネサンス事典』東信堂, 2003 年.

- [53] 「斜面運動の「原理」：機械学から運動論へ」『科学史研究』第 42 卷 (2003 年), 233–235 頁. [https://doi.org/10.34336/jhsj.42.228_231]
- [54] 「落下法則：古典力学の誕生と数学」京都大学大学院文学研究科 21 世紀 COE プログラム「グローバル化時代の多元的人文学の拠点形成」編『人文知の新たな総合に向けて：報告書』(2004 年), 第二回報告書 II [哲学篇 1], 45–53 頁.
- [55] 「オイラーの運動方程式」『科学哲学科学史研究』第 1 号 (2005 年), 153–169 頁. [<http://dx.doi.org/info:doi/10.14989/56969>]
- [56] 『18 世紀における古典力学の体系化に関する歴史的研究』平成 14 年度～平成 17 年度科学研究費補助金 (基盤研究 (C)) 研究成果報告書, 2006 年.
- [57] 【書評】「大出晁著『知識革命の系譜学：古代オリエントから 17 世紀科学革命まで』」『科学哲学』第 39 卷 (2006 年), 104–107 頁. [https://doi.org/10.4216/jpssj.39.2_101]
- [58] 「新しい論理学」『哲学の歴史 4：15–16 世紀』(中央公論新社, 2007 年),

- 129–130 頁.
- [59] 「ボンボナッツィ」『哲学の歴史 4：15–16 世紀』（中央公論新社，2007 年），257–274 頁.
- [60] 「ガリレオ」『哲学の歴史 4：15–16 世紀』（中央公論新社，2007 年），603–628 頁.
- [61] 「シンポジウム 古典力学の展開：オイラー生誕 300 年を記念して（2007 年度年会報告）」『科学史研究』第 46 巻（2007 年），177–189 頁. [https://doi.org/10.34336/jhsj.46.243_177; 中田良一・有賀暢迪・中根美知代と共著]
- [62] 「オイラーと 17 世紀力学：落下法則から運動方程式へ」『科学史研究』第 46 巻（2007 年），178–180 頁. [https://doi.org/10.34336/jhsj.46.243_177]
- [63] 「ガリレオの落下法則（科学史入門）」『科学史研究』第 47 巻（2008 年），32–35 頁. [https://doi.org/10.34336/jhsj.47.245_32]
- [64] 「フォン・ノイマンとマカロックーピッツ・モデル：オートマトン理論の誕生」『科学哲学科学史研究』第 2 号（2008 年），117–132 頁. [<http://dx.doi.org/info:doi/10.14989/56984>]
- [65] 「ガリレオの望遠鏡と天体観測」『イタリア圖書』第 41 号（2009 年），2–8 頁.
- [66] 【研究ノート】「ヨハン・ベルヌーイ『水力学』における運動方程式」『科学哲学科学史研究』第 4 号（2010 年），115–126 頁. [<http://dx.doi.org/info:doi/10.14989/108691>]
- [67] 【講演概要集】「湯川・朝永・坂田記念史料の整理とデータベース整備」『日本物理学会講演概要集』第 65.1.2 巻（2010 年），425 頁. [http://dx.doi.org/10.11316/jpsgaiyo.65.1.2.0_425_4; 高岩義信・九後太一・坂東昌子らと共著]
- [68] 【講演概要集】「ダニエル・ベルヌーイとレオンハルト・オイラー：力学の基本原則をめぐって」『日本物理学会講演概要集』第 65.2.2 巻（2010 年），359 頁. [http://dx.doi.org/10.11316/jpsgaiyo.65.2.2.0_359_3]
- [69] 「18 世紀前半における力学の発展と流体力学の誕生」『数理解析研究所講究録』第 1749 号（2011 年），1–15 頁. [<https://ci.nii.ac.jp/naid/110008606439/>]
- [70] 【講演概要集】「湯川・朝永・坂田記念史料の整理とカタログ・データベース整備の状況 I：全体の概要」『日本物理学会講演概要集』第 66.1.2 巻（2011 年），431 頁, DOI: [http://dx.doi.org/10.11316/jpsgaiyo.66.1.2.0_431_1;

高岩義信・五島敏芳・小沼通二らとの共著]

- [71] 【講演概要集】「レオンハルト・オイラーにおける「活力」概念」『日本物理学会講演概要集』第 66.2.2 巻 (2011 年), 358 頁. [http://dx.doi.org/10.11316/jpsgaiyo.66.2.2.0_358_2]
- [72] “Galileo’s Principle of Descending Motion along Inclined Planes,” *Historia Scientiarum*, 21 (2011): 93–102.
- [73] 【事典項目】「ガリレオ・ガリレイ」「イタリアの科学史博物館」イタリア文化事典編集委員会編『イタリア文化事典』丸善出版, 2011 年.
- [74] 【研究ノート】「18 世紀前半の力学における「座標」概念」『科学哲学科学史研究』第 6 号 (2012 年), 91–102 頁. [<http://dx.doi.org/info:doi/10.14989/153494>]
- [75] 【講演概要集】「18 世紀力学におけるガリレオ」『日本物理学会講演概要集』第 67.2.2 巻 (2012 年), 355 頁. [http://dx.doi.org/10.11316/jpsgaiyo.67.2.2.0_355_2]
- [76] 『ガリレオ：望遠鏡が発見した宇宙』中公新書, 2013 年.
- [77] 【サーベイ論文】「Truesdell と 18 世紀力学史」『科学哲学科学史研究』第 7 号 (2013 年), 49–65 頁. [<http://dx.doi.org/info:doi/10.14989/173333>]
- [78] 『コンピュータ理論の起源 第 1 巻 チューリング』近代科学社, 2014 年. [編集および佐野勝彦・杉本舞との共訳]
- [79] 展示委員, 京都大学総合博物館・京都大学大学院理学研究科 (2014) 『明月記と最新宇宙像』, アクティブ KEI, 2014 年.
- [80] 【講演概要集】「湯川・朝永・坂田史料整理の意味すること：史料整理の方法と実際およびその活用へ向けて」『日本物理学会講演概要集』第 69.1.2 巻 (2014 年) 446 頁. [http://dx.doi.org/10.11316/jpsgaiyo.69.1.2.0_446_2; 高岩義信・伊藤憲二・受川史彦らとの共著]
- [81] 【研究ノート】「ガリレオの天体観測 (1) : 月」『科学哲学科学史研究』第 9 号 (2015 年), 103–114 頁. [<http://dx.doi.org/info:doi/10.14989/197249>]
- [82] 【研究ノート】「ガリレオの天体観測 (2) : 木星の衛星」『科学哲学科学史研究』第 10 号 (2016 年), 43–54 頁. [<http://dx.doi.org/info:doi/10.14989/210110>]
- [83] 【Research Notes】“Galileo’s early observations of sunspot”『科学哲学科学史研究』第 11 号 (2017 年), 55–64 頁. [<http://dx.doi.org/info:doi/10.14989/>]

219632]

- [84] 【翻訳】ガリレオ・ガリレイ『星界の報告』講談社学術文庫, 2017年.
- [85] 「ガリレオの天体観測と新しい宇宙論」『哲学研究』第601号(2017年), 29–55頁. [https://doi.org/10.14989/JPS_601_29]
- [86] 「ガリレオ・ガリレイ「科学者」の誕生?」『近畿化学工業界』第69巻(2017年), 1–4頁.
- [87] 【新聞記事】「『星界の報告』を翻訳して」公明新聞2017年11月5日.
- [88] 【新聞記事】「ガリレオの感動をあなたも」京都新聞2017年12月8日.
- [89] 「ガリレオの見た新しい宇宙」『学会会報』2018年第6号, 71–75頁.
- [90] 「明治日本における地震学：歴史地震学の誕生」武田時昌・麥文彪編『天と地の科学：東と西の出会い East-West Encounter in the Science of Heaven and Earth』(京都大学人文科学研究所, 2019年), 207–222頁.
- [91] 【Research Notes】“Harriot and Galileo: On sunspot observations.”『科学哲学科学史研究』第13号(2019年), 43–52頁. [<http://dx.doi.org/info:doi/10.14989/240987>]
- [92] 「科学的宇宙論の発展」京都大学宇宙総合学研究所編『人類は宇宙をどう見てきたか』(朝倉書店, 2019年), 1–22頁.
- [93] 【協力】山本省三(文)・カサハラテツロー(絵)『ガリレオ』講談社火の鳥伝記文庫, 2019年.
- [94] 「ガリレオ『世界系対話』における運動論」『京都大学文学部研究紀要』第59号(2020年), 271–293頁. [<http://hdl.handle.net/2433/251010>]
- [95] 【資料】長岡半太郎「欧洲物理学実験場巡覧記」『科学哲学科学史研究』第14号(2020年), 69–84頁. [<http://dx.doi.org/info:doi/10.14989/250445>; 秦皖梅との共編]
- [96] 【研究ノート】「ガリレオの望遠鏡：観測と理論」『科学哲学科学史研究』第15号(2021年), 112–121頁. [<http://dx.doi.org/info:doi/10.14989/262969>]
- [97] 【事典項目】表紙カバー見返し解説 [橋本毅彦との共著], 「ルネサンスの科学」, 「第2章 数学・天文学・物理学」[斎藤憲・橋本毅彦との共著] および編集幹事, 日本科学史学会編『科学史事典』丸善出版, 2021年.